

# 会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 21 年 9 月 28 日(月)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 20 分
会議名	上田中央地域協議会(平成 21 年度第 6 回)		
出席者	小林会長、白石副会長、浅井委員、安藤委員、飯島委員、池田委員、一之瀬委員、岡田委員、荻原委員、栗田委員、佐藤委員、塩入委員、田口委員、竹田委員、中村委員、宮本委員、森田委員、安井委員、山極委員 (欠席委員) 栗俣委員 (事務局) 浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査 (説明者) 伊藤交流・文化施設建設準備室長、田中廃棄物対策課長、甲田農政課長、倉島生活環境課環境保全担当係長		
会議次第			
1 開会(浅野まちづくり協働課地域振興政策幹)			
2 会長あいさつ 第 2 分科会でまとめた、「生ごみ減量化・資源化に向けたアンケート」を自治連会長を通じて自治会にお願いしている。皆様も関心を寄せていただき、よろしくお願ひしたい。第 1 分科会で進めている「歴史的資源を保存し活用したまちづくり」についても、西部地域協議会との合同の学習会を進めている。中央地域協議会として精一杯努力をし、提言をまとめていきたい。本日は大変たくさんの議題があるので、ご協力をよろしくお願ひしたい。			
3 会議事項			
(1) 全体会議			
交流・文化施設整備について			
資料:「J T 開発地における交流・文化施設のありかた検討結果報告書」			
より交流・文化施設建設準備室から説明			
. 理念と目標			
. 交流・文化施設の整備方針			
. 運営・管理の方向性			
. 建設にあたって			
【主な質疑等】			
(委員) 緑地ということで 18,000 m <sup>2</sup> のところ芝生広場を造ること、千曲川堤防沿い			

に、桜並木を造るということは記載されているが、施設の周辺にも適当な植樹を計画して欲しい。

(委員) 1700 席という立派なものができることはいいと思うが、今ある市民会館の稼働率はどのくらいか。また、ここで示されている年間の維持管理費は一般的なのか。小中学生が全体で集まるにはそのくらいの席が必要とあるが、今まではどのようにしていたのか。

(担当課) 今の市民会館は客席数が 1,330 席だ。46 年前に建設された時には、客席数が 1,500 席だった。平成 6 年度に客席に幅を持たせる形に改修して、1,330 席となった。検討委員会の中で、ある程度の規模でないと質の高い公演は来て頂けない、貸し館でご利用いただく場合についても、客席数が 1,600 席以上でないと難しい、との意見が出た。

現在の市民会館はステージ周りやリハーサル室がない、楽屋が不十分、といった機能で、なかなか使っていただけない。大ホールは、平成 20 年度の稼働率が約 50% という状況だ。施設の老朽化等によることもあると思う。新しく市民会館ができることによって、さらに利用が増えると思っている。こういう環境を整えていく事により、多くのアーティストまたは公演に市民が接することが増えると考ええる。

維持管理費について、市としては今後財政事情を検討しながら、建設費やランニングコストの面で費用の検討をしていかななくてはいけないと考えている。

学校サイドからは、上田地域は吹奏楽や合唱も盛んな地域で、全学校が集って演奏ができる場所が必要とのご意見をいただいている。これまでは、東御市のサンテラスホールなどで、3日間くらいに分けて行っている。高等学校の吹奏楽の定期演奏会や学校でも利用されている。特に、これからは子供達に芸術鑑賞に触れていただきたいと願っている。

(会長) 資金は上限で 135 億円というお話があったが、何年で返済できるのか。

(担当課) 135 億円という上限で設定した場合、国からのまちづくり交付金が 10 億円、合併特例債を 111 億円、そのうち交付税で算入される金額は 78 億円あるので、実質市の負担は 33 億円ということになる。当初、建設に必要な 10 億円と合わせて、市の最終的な負担としては、43 億円程度となると見込まれる。これはあくまで上限の 135 億円を使った場合になるが、合併特例債の返済については 10 年間である。

(会長) 合併特例債はあくまでも債権(借金)ですから、この部分をもう少し市民に伝えたほうがいいのではないか。

上田市バイオマスタウン構想等について

資料:「上田市バイオマスタウン構想の認定について」より生活環境課から説明

1. 公表日:平成 21 年 3 月 31 日

2. 第 33 回バイオスタウン構想公表の内訳（対象地域）

3. 上田市の公表内容

4. 今後上田市の取り組み

【主な質疑等】

（委員）バイオマス利用促進検討会は、すでに立ち上がり進んでいるのか。

（担当課）生ごみの処理に関する検討会は従来からあったが、バイオスタウン構想が

認定になったことで、現在関係する各課が集って研究をしている。

（委員）バイオスタウン構想を上田市で公表したということだけで、実際にどうするのか見えてこない。市はPRをする必要がある。施設整備等の取組工程表が載っているが、計画が甘いのではないか。具体性を持った工程表を示して欲しい。市のほうから危機感が伝わってこない。

（担当課）具体的に検討していることが、見えてきていないというご指摘だと思う。バイオスタウン構想は行政だけでできるものではない。市民の皆様、企業の皆様、上田市一体として取り組んでいかななくてはいけないものだ。市民の皆様にも市の活動について、時期を見て具体的に分かりやすい形で、PRできるように考えていきたい。

（委員）3月にバイオスタウン構想が公表されて、具体的にどのような研究をしてきたのか教えてほしい。

（担当課）現在のところは、内部での検討を進めている段階で、成果としてお示しできるものはない。大きな事業なので、具体化に向けて、細部にわたっているいろいろな検討がされている。

（委員）もう少し進捗が見える形で進めていただきたい。現在、処理施設が白紙になっている。施設を造るにしても、前回と同じことになっては困る。

（廃棄物対策課）上田市のバイオスタウン構想が3月に認められた。公表ということで、具体的なものではない。大まかなことを決めて国のほうに取組を報告する。行政が行う場合は2分の1助成金が出る。民間団体の場合、3分の1助成金が出る。構想の中の一つ一つの事業を進めるにあたり、新たな計画を作らなければならない。計画ができ、国へ報告して認められたときに助成金が出る。今は最初の段階に取りかかったところ。急がなければいけないのは、生ごみをどのように処理するかである。以前は廃棄物対策課が単独で事業を進めてきた。現在は庁内で組織を作り検討をしている。一番の問題は施設をどのように造っていくのか。そして場所の問題も難しい。また、できた堆肥の出口の問題も確保していかなければならない。処理をして肥料の形にし、使っていただく仕組みを作らなければならない。この地域の農地で使っていただき、そこでできた作物をこの地域で消費して

いただく。そのような循環型システムをつくっていききたい。

(会長) 上田市の取組は始まったばかりで、まだ具体的な答えを出すことはできないと思うが、中央地域協議会の第2分科会で協議してきた意見を、行政側に要望していく、提言していく形で進めて参りたい。

ごみ減量化に向けて取組について

資料：「ごみ量の推移(比較)」「資源回収量の推移」「ごみの状況(平成20年度)」「ごみ減量化機器購入費補助の状況」「上田市ごみ減量化アドバイザーの業務」  
等より廃棄物対策課から説明

資源循環型社会に向けた取組について 農政課から説明

- ・具体化してきたところで資料等用意をしてご報告したい。
- ・資源循環型農業(環境保全型農業)を進めることは、農政のひとつの方向付けではないかと考える。
- ・農政としても地産地消を進めて、出口のところでは有意性を実証していきたい。

(会長) 行政側からいろいろなお説明を頂戴した。我々が考えてきたことが、すぐに実行できないということも感じた。非常に参考になった。

## (2) 分科会協議

- ・第一分科会：歴史的な資源を保全・活用したまちづくり
- ・第二分科会：ごみ減量化問題

## 4 連絡事項等

- ・次回会議の開催  
平成21年10月19日(月)開催予定

閉 会